

令和8年度 第3回梅坪台地域会議 会議録

■ 日 時 令和8年7月14日（火） 午後7時～午後8時30分

■ 場 所 梅坪台交流館 1階 中会議室

■ 出席者

＜委 員＞	安部 隆一（欠席）	岩崎 洋平	岩松 初男（欠席）
	木村 公紀	小泉 修	杉山 健章
	高山 浩	鎮西 和也	三岡 英隆

＜交流館＞ 杉山 浩子（梅坪台交流館 館長）

＜事務局＞ 塚田 征弘（地域交流課 副課長）

槌井 功二（地域交流課 担当長） 佐野 綾香（地域交流課 書記）

■ 内 容

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 地区コミュニティ会議報告
- 4 今後の協議の進め方及び次回までの検討事項(協議)
- 5 地域会議だよりの作成について
- 6 梅坪台健康づくり事業の指標等の状況について
- 7 わくわく事業紹介
- 8 連絡事項

■ 議事内容（要約）

2 会長あいさつ

杉山会長あいさつ

3 地区コミュニティ会議報告

杉山会長から以下のとおり報告

- ・ 梅坪台中学校で収穫した梅の販売を行い、売上金 65,500 円を梅坪台中学校の生徒会に寄付した。
- ・ 7月18日～25日に交流館の駐車場でラジオ体操を実施する。
- ・ 交流館で映画「ぼけますから、よろしくお願いします。」の上映会を実施し、約 100 名の方が参加した。

- ・ 9月12日に「高専飯」が梅坪台編として出張で行われる。
- ・ そのほか防災フェスタ、ふれあいまつり、二十歳のつどいの準備状況等

4 今後の協議の進め方及び次回までの検討事項(協議)

事務局から地域と子どもとのつながりの強化に向けた今後の協議の進め方(案)を提示した。その後、「目指す地域の姿」について意見交換を行った。それぞれイメージを膨らませて、次回の会議にて引き続き協議することとした。

〈主な意見〉

■ 日常的な地域交流に関する意見

- ・ 朝のあいさつを交わすことで、気持ちの良い朝を迎えることができる。
- ・ 交流館がつながりのハブとして機能していると感じる。一方で区民会館がどのように利用されているか調べてみたい。
- ・ 毎日朝早く起きて地域をウォーキングしているが、人のルーティンは皆同じで、大体同じ場所で同じ方とすれ違う。あいさつを交わしたり、世間話をしたりすることでつながりを感じる。
- ・ 子どもをきっかけに、保護者同士のつながりが生まれた。
- ・ 親世代にとっては、パパ友・ママ友のつながりも地域とのつながりの場の一つである。

■ 地域活動への参加と人間関係の広がりに関する意見

- ・ 有志会という似た年齢の人たちでグループを作り、月に一回パトロールをしたり食事したりしているが、情報交換ができて非常に住みやすい町だと感じている。
- ・ 所属している団体同士で情報交換を行うことができる。
- ・ 組長を務めたことをきっかけに地域とのつながりが広がり、退職後に会社のつながりが薄れても、地域とのつながりが続いている。
- ・ 地域の役を担うことになった人の中には、これまで交流館を訪れたことがなく、自治区がどのような活動をしているのか分からない人もいる。また、役割を担うことに抵抗感を持つ人もいるが、実際に活動に参加することで、地域で行われている取組を知り、地域との関わりが生まれる。そのようなきっかけとなる場をつくり、地域へ取り込んでいくことが私たちの役割ではないか。
- ・ 組長やPTAなどは「やりたくない」と思う人も多いが、実際に参加してみると意外と楽しいと感じることもある。
- ・ 参加して良かったという経験が次のつながりにつながるため、参加する前の心

理的なハードルを下げる必要がある。活動について良い印象が広まる
ことが大切ではないか。

■ 地域で支え合える関係づくりに関する意見

- ・障がいを持つ子どもを育てる中で、地域の方の温かさを感じることができ、住みやすい地域であると実感した。
- ・緊急時に地域で助け合うことができるつながりが重要。大災害でなくても身近な場面でも助け合えるとよい。
- ・顔と名前が一致しているつながりも重要。高齢者クラブで月に一回会合があり、誕生日を祝っている。本人がその場になくても自然と話題に上がるなど、お互いを共通認識として持てるようなつながりがあるとよい。
- ・地域のイベントを優先する人が多いつながり。イベントを開催した際には自然と人が集まるようなつながりがあるとよい。
- ・自分の親は、定年後、地域とのつながりもなく、高齢者クラブの誘いも断って、近所とも交流がなかった。緊急時に頼れるようなつながりをつくるきっかけとなる場があるとよい。
- ・インターネット上のつながりでは、緊急時に助けてもらうことは難しい。そうした時に頼れる身近な人とのつながりの大切さを、現在の若い世代に理解してもらえるよう働きかける必要がある。
- ・近所の人が自分たちの顔と名前を知ってくれているのは安心できる。安心安全なまちづくりの基本はつながりである。

■ 子ども・若者と地域の関わりに関する意見

- ・市長の「町を出た子どもたちが、また戻りたいと思えるような子どもを育てたい」という言葉に共感した。子どもは地域との関わりや楽しかった思い出を大人になっても覚えていると思うため、小・中学生の頃に地域で良い思い出を多くつくることができれば、将来この町に戻ってきたいと思う子どもが増えるのではないかな。
- ・親や祖父母が、若い世代に「この地域に住み続けてほしい」と勧めたくなるような関係を築きたい。次の世代がここに残ってくればつながりがさらに強くなる。
- ・小学生の頃に地域と関わり、地域を好きになったとしても、成長する過程で地域とのつながりが薄れる時期がある。それが中学生の時期ではないか。この時期に地域とのつながりを途切れさせないための取組が必要であり、中学生ボランティアなどを通じて「参加してよかった」という思い出をつくることできれば、将来、地域に戻ってきたいと思うきっかけになるのではないかな。

- ・将来自治区の仕事がしたいという中学生がいて、母親の代わりにとてもよく仕事をしてくれている。自治区をよくしていきたいと考える子どもを育てることができれば、一度地域を離れても、将来的に戻ってきてくれるのではないかな。
- ・若草苑の奉仕活動に中学生30人程度が参加した。窓越しにお年寄りとのコミュニケーションをとっていて、とてもいい活動だと感じた。
- ・この町の将来を担う子どもたちが、将来「この町は良い町だ」と思えるような地域や人間関係を築いていきたい。

■ 地域への参加・受入の仕組みに関する意見

- ・引っ越してきた際、地域のルールや決まりごとを知る機会がなく、分からないことがあった。
- ・人とのつながりをつくるのが苦手な人もいる。そのような人とどのようにつながりを作っていくかを考える必要がある。
- ・地元の人と新しく転入してきた人との距離が課題である。集まりへの参加や、親になったことをきっかけとしたパパ友・ママ友のつながり、順番で回ってくる組長の経験などを通じて地域デビューをした。こうしたつながりが生まれるきっかけは、地元の人が新しく来た人に「一緒にやらないか」と声をかけ、地域の仲間として受け入れることである。そのため、新たな事業を実施することも大切だが、既存の団体などへ声をかけていくことも有効ではないか。
- ・幅広い世代に対して、地域デビューの場や方法があるとよい。

■ 地域とのつながりに対する意識やニーズに関する意見

- ・つながりを求めている人がどの程度いるのかを把握したい。つながりを求めている人にはきっかけを提供すればよいが、つながりを必要としない人が多い場合は別の問題となるため、地域アンケートを実施する場合は、そのような視点も含めて項目を検討する必要がある。
- ・つながるきっかけがないだけで、つながりたくないと思っている人は少数ではないか。
- ・つながりで色々頼まれることがあり、面倒くさいと感じることもある。
- ・地域とのつながりを楽しいと感じる人もいれば、それぞれの生活スタイルがあり、自分の趣味や時間を大切にしたい人もいるため、その考え方を否定することはできない。
- ・集合住宅に住む人の中には、地域とのつながりの必要性を感じていない人もいると思う。それがマジョリティになっているのも、梅坪台地域の特性となっている可能性がある。そのような人たちをどのように捉え、働きかけていくのか、あるいは働きかけないのかも含めて、アンケートを実施する場合は項目を検

討する必要がある。

- ・昭和生まれの世代は近所とのつながりがあった一方で、平成生まれの世代は近所付き合いが少ない環境で育っている。そのような環境で育った人が、地域とのつながりを重要だと感じないことは自然なことではないか。

→若い世代は現在、つながりの必要性を感じていないかもしれないが、20年、30年後には考え方が変わる可能性がある。その時に、つながりをつくるきっかけとなる場があるとよい。

- ・地域に限定したつながりだけではなく、現在はSNS上のつながりや地域クラブなど、昭和の時代にはなかった新しいつながりも存在しており、地域のつながりよりも優先されている部分もあるのではないか。

→SNS上ではつながっていると感じていても、実際には顔や名前が分からない場合もあり、本当の意味でのつながりとは言えないのではないか。

- ・アンケート調査だけでなく、高齢者クラブや女性会などと意見交換して実情を知るのも大切。

5 地域会議だよりの作成について

地域会議における議論や提言内容を住民へ広く周知することを目的として、事務局から地域会議だよりの作成について提案した。

協議の結果、9月の次回会議において紙面構成等について委員から意見をいただきながら、作成を進めることとした。

6 梅坪台健康づくり事業の指標等の状況について

前回の会議において、梅坪台健康づくり事業のパンフレットに記載されている指標の現状値について質問があったため、事務局から各指標の最新の数値について説明した。

7 わくわく事業紹介

事務局から「ニュースポーツの会」の活動内容について説明した。

■ 今後の予定

令和8年度第4回梅坪台地域会議

9月8日（火）午後7時 ～ 梅坪台交流館中会議室にて